

2020年04月27日

カトリック東京大司教区
緊急事態宣言が発令されている間の現行の措置
2020年4月27日

カトリック東京大司教区 大司教 菊地功

1:いのちを守るために、基本は、家にとどまりましょう。

特に高齢であったり持病のある方にとっては、自宅において共同体の祈りに加わるようになさってください。

2:主日のミサにあずかる義務の免除

当面の間、東京教区のすべての信徒を対象に、主日のミサにあずかる義務を免除します。

3:公開ミサの中止

当面の間、不特定多数が参加する公開のミサを原則として中止します。

4:諸行事・活動の中止

ミサ以外の諸行事・会合・集いに関しては、緊急に必要な場合を除いて、どのような規模であっても、緊急事態宣言が解除されるまでは、中止または延期としてください。

5:結婚式

結婚式に関しては、延期が難しい場合、十分な感染症対策を行い、社会的距離をとって、行います。

6:葬儀

葬儀についても、参列者や司祭だけでなく、葬儀社の方々も感染の危険にさらされています。ご遺族の皆様には司祭とよく話し合い、例えば火葬を先に済ませて、後日事態が落ち着いてから葬儀を行う可能性もお考えください。諸事情から、ごく小規模で行われる場合でも、感染症対策や社会的距離を充分にとって行います。

以上

緊急事態宣言のなかにあつて

カトリック東京大司教区の皆様

「私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)と弟子たちに約束された復活の主は、新しいいのちに生きるようにと、わたしたちを招いておられます。感染症の拡大という困難な事態のただなかにあつても、わたしたちは、主がお見捨てになることなく、今日もまた共におられることを信じています。

いのちの危機に直面する中で、人間の弱さを自覚させられているわたしたちは、「キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」というパウロの言葉を思い起こします(2 コリント 12:9)。助けを求めている世界は、わたしたち弱い存在を通して働かれる力強い神の力を必要としています。

ですから、できる限り家にとどまりましょう。それは逃げ隠れているのではなく、すべての人のいのちを守るための前向きな行動です。

同時に、様々な事情から家にとどまれない人たち、とどまる家のない人たちに、力強い守りの手が差し伸べられるよう祈りましょう。またいのちを守るために、日夜懸命に働いておられる医療従事者の皆さんが、守られるように祈りましょう。病床にある人たちに、神の癒やしの手が差し伸べられるよう祈りましょう。

困難に直面するわたしたちは、神の愛といつくしみのうちに、互いに助け合い、支え合い、尊重し合い、連帯する中で一致へと歩むことができるように、努めたいと思います。カリタスジャパンも、いのちを守る活動を支援するため、募金を始めました。

緊急事態が宣言されている間、ミサの公開を含めた教会活動を中止しています。解除された後にも、しばらく状況を見極める必要があります。当面の間、現状を維持し、「三つの密」を避け、責任ある行動をとりましょう。今後の方向性については、緊急事態宣言が解除されたとき、お知らせできるように準備しています。

集まることができない中でも、共にいてくださるイエスを中心として、わたしたちは一つのからだに霊的に繋がれています。今年の復活祭に洗礼を準備されていたものの、洗礼式がまだ行われていない皆さんも、そのからだの一部です。洗礼志願者の皆さん、それぞれの場にとどまりながら、神の力が世界を支配してくださいますようにと、共同体の皆と一緒に祈ってください。

いつくしみ深い神が、すべての人を、まもってくださいますように。

2020年4月27日

カトリック東京大司教区 大司教
菊地功



東京大司教 タルチシオ菊地功